

アジア・アフリカ図書館だより

第3号

平成29年8月

特別展『“道”から見たアジア・アフリカ世界』始まる

— 壁面パネル展示と書架展示で —

アジア・アフリカ図書館では、活動の活性化を図るため、昨年『“詩”から見たアジア・アフリカ世界』の特別展を行って好評を得ましたが、平成29年度は『“道”から見たアジア・アフリカ世界』を始めました。それは当館には、“道”（シルクロード）に関する図書100点以上を所蔵していること、“道”には陸と海の道（シルクロード）があり、古くからの東西交流や交易を通して、風土や文化・宗教および歴史に影響を及ぼしており今日的にも注目されていることから二つの“道”を通してアジア・アフリカ世界に目を向けていただきたいからです。

特別展は、パネル展示と書架を使った資料展示からできています。2階の図書館に入ってすぐの受付正面の壁面には、陸・海のシルクロードがどのような変遷を経て物や文化を伝え、各地域の文化や生活様式を創出してきたかについてパネルを用いてわかりやすく解説し、紹介しています。また、書架の一角には、当館所蔵の“道”に関する図書の中から選んだ珍しい図書を展示しています。

図書館の中にはアジア・アフリカ各国・地域の異分野の本も多数所蔵しており、各国の文字や日本語で書かれた本や辞典の閲覧も行って、一部を除いて借り出すこともできます。奥の集密書庫には、アジア・アフリカ各種言語の原書も所蔵しており、正に文字や言葉・事典の博物館のようです。

静かな住宅街の中にある異文化空間のようなアジア・アフリカ図書館で、これらの世界の風物や文化に触れる旅に出てみませんか。



シルクロードを通して、はるか西方の文物が、中国を越え、さらに飛鳥、奈良時代の日本にまで到達していました。

それを最も雄弁に物語るのが奈良・正倉院の宝物です。

左の写真は、ササン朝ペルシャで制作されたと言われる「白瑠璃碗」とインドから伝わってきたとされ、世界で唯一現存する五絃の琵琶「螺鈿紫檀五絃琵琶」です。

図書館長あいさつ

当館所蔵の貴重な図書・文化資源を生かす

アジア・アフリカ図書館は、「郭沫若文庫」の創設を機に1957年に設立して五十数年になります。今では文庫の図書や諸資料を三鷹市立南部図書館に展示したり、市民に公開したり、また、両館共催の事業「みんなみフェスタ」や当館主催の「アジア・アフリカを知る集い」を行ったりして利用の普及を図っています。昨年度もこれらの行事には、多くの市民や支援者が参加して好評を得ました。

当館では、所蔵の図書や文化資源が多くの方々に利用され生かされてこそ存立の意義があると考え

アジア・アフリカ図書館長 篠原 昭雄

えています。昨年度に続いて、今年度は『“道”（みち）から見たアジア・アフリカ世界』をテーマに特別展示を行い、同時に年間の諸行事を関わらせて更に充実を図ることにしました。

これらを通して図書館利用を多くしたり、今日のアジア・アフリカ世界に親しんだりする手掛かりにさせていただければと期待しています。



特別展『“道”から見たアジア・アフリカ世界』



アジア・アフリカ世界に存在する“道”

古くからの東西交流を見る時、人や物資の移動や宗教の伝達は“道”の概念においてとらえることができます。一般によく知られているのがシルクロードです。東大寺の正倉院に西域の美術品が収められていることはご存じでしょう。シルクロードの東の端が日本や韓国なら、西の端は中央アジア、アラビア諸国を通過して繋がっているヨーロッパです。

では、具体的にこれらの“道”とはどんなものなのでしょうか？ そもそもシルクロードとはドイツの地理学者、リヒト・ホーフマン（1833～1905）が、東西交易のルートと呼んだのが始まりで、貴重な交易品として珍重された絹が中国から西洋に運ばれたのがその名の由来です。シルクロードと言う場合、陸路と海路を指すことが多く、陸路は中国の長安から発して山岳や草原、砂漠のオアシス都市を通りながら、中央アジア、アラブ諸国、トルコなどを経てローマに達する“道”のことを言います。海路は、地中海から紅海、アラビア海、インド洋を通過して東シナ海を通る紀元前からあるルートで、陸路をラクダのキャラバンで運ぶのが困難な陶磁器などが運ばれました。特に中国や日本の陶磁器が西域やヨーロッパの遺跡や宮殿で見られるのは、明らかに海路によって運ばれたものと推定されます。

様々な民族や国の興亡の中で、陸路は繁栄と衰退を繰り返しました。海路もまた、支配する民族によって様々な変遷が繰り返されました。西洋のアジア・アフリカ進出で植民地時代を経験したこれらの諸国は20世紀になって相次いで独立し発展しています。今世紀になると、中国が陸と海のシルクロードを暗に意識したとされる巨大経済圏「一帯一路」構想を提唱しました。「一帯」とは陸路を指し「一路」とは海路を指しており、新たな東西交流ルートとも言えます。これらの地域のインフラ整備などの問題は多いのですが、アジアの“道”に即したこのような動きがあることも注目されます。

パネル（展示）は、更に詳しく両シルクロードの過去と現在を紹介しています。



“道”による東西文化交流史

世界史	陸の道	海の道
BC7C BC550-486 BC356	ギリシア文化の西進 仏教の起り アレクサンドロス大王即位	BC100頃ー フェニキヤ人による地中海貿易活動
BC231 BC202 BC120頃ー BC146	秦、中国を統一 郡県制の導入 武帝の即位 武帝の即位 武帝の即位	BC176頃 BC141 BC139 BC2年頃 BC2
BC27 25 105	ローマ帝国成立、初代ローマ皇帝アウグストゥス キリスト教の成立 西暦による改暦の発明（西暦で始まる）	BC100頃 1ー2C 1ー3C
3C頃 375 395 476	西暦の改定（西暦の発明）の発明（中国・朝鮮） ゲルマン民族大移動の開始 ローマ帝国東西に分立 西ローマ帝国滅亡	1ー2C 166 2C後半
610 618 662	イスラム教成立 唐の成立 唐の文化の発展（中国）	BC100頃 7Cー15C 7C中頃
756 9C 960 1127 13C頃	イスラーム教の西進 トルコ人の西進 モンゴル帝国の成立 元（1271-1368）の西進 チンギス・ハン（カン）の西進	7Cー15C 7C中頃 671-695 702 714ー
1368 1405 1453 1517-1917 1492 18C後半ー 19C中頃ー 1914-1918 1919-1945	明の成立（1368） ポルトガル人の東洋航路の発見（1482） オスマン帝国の成立（1453） 大航海時代の始まり コロンブスのアメリカ発見 産業革命の進行 ヨーロッパの植民地による世界貿易の進展 第一次世界大戦 第二次世界大戦	11C頃ー 1290 1346 1405-30 1498-1522 1858 19C中頃 19C後半 20世紀中頃 2015頃ー
2014 2015	中華人民共和国内閣ASEANで「一帯一路」構想を提唱 アジアインフラ投資銀行（AIIB）発足	20世紀中頃 2015頃ー

海のシルクロード

紀元前2500年から紀元前1500年頃にかけて栄えたインドのインダス文明の頃からメソポタミアとインドを結ぶアラビア海ではインダス人の航海が行われていました。また、同じ頃地中海から紅海を通るルートではフェニキヤ人が活躍し、様々な物品を運んでいました。幾多の国が興亡を繰り返す中で、どの支配者も海上の貿易に関心をもちました。ローマ時代にはエジプトからインドにまで達する航路が次第に増えてきました。そのことはインドで当時のローマの貨幣が発見されていることから見てわかります。輸出入の対象となったのは、香料、香辛料、宝石、薬などでした。

紀元前2世紀頃から東南アジアを経て中国に至るルートが記録に現れ始めました。中国の支配がインドシナ半島に及ぶようになると、南方の知識が中国にも伝わりました。漢の武帝の代にはローマからも使者が訪れるなど、海上による東西貿易が活発になってきました。

9世紀から10世紀にはイスラーム商人が中国に來航するようになり、南海貿易は更に盛んになりました。宋の青龍や宋銭がいわゆる海のシルクロードの沿岸地帯から広く出立していることは、この時代の南海貿易で中国陶磁器の輸出がいかに盛であったかがわかります。元の時代には、馬を使って遠征したモンゴル人によって、陸のシルクロードはモンゴル帝国の支配下に入りました。その後、さらにイスラームの征服が行われ、1279年には、中国の南宋を滅ぼした中国の泉州をもとにインド洋に至るまで貿易圏を拡大しました。こうして「陸」の道と「海」の道とが結びつくことになったのです。

元に仕えたマルコポーロは泉州を出発した大船団に加わり、ヴェネツィアへ向け南海路を通過して帰国するのはその例です。また、エジプトからアラビア半島、小・中央アジアを通過してインドに入り、海路スマタラから中国に達したブン・バトゥータの大旅行も知られています。さらに、元を滅ぼした明の時代には、鄭和が1405年～1433年に大船団を率い大規模な遠征を行っています。

古くからヨーロッパには胡椒や肉桂（シナモン）などの香辛料が東方から伝わっていました。1498年、マルコポーロのバスコ・ダ・ガマがインドのカリカットに到達すると、大航海時代に移り、オランダ、イギリスも相次いで東インド会社を設立し、こうして西洋と東洋の新たな交流の幕明けとなったのです。



陸のシルクロード

紀元前より東西交易の中心的役割を担ってきた「シルクロード（絹の道）」は、中国と遊牧民族の間の領土や土地の争奪の歴史の中で発展しました。現在の新疆ウイグル自治区にあたる天山山脈とクラン山脈に挟まれたタリム盆地はまさにその舞台であり、古くから交易の主役となるオアシス都市が多く繁栄しました。いわゆる西域、中央アジアに抜けるまでの中国側のシルクロードは4通りあり、それぞれ河西回廊、天山北路、天山南路、西域南道と呼ばれています。漢の時代にこれらのオアシス都市の存在が中国に伝わり、武帝はその都市群を支配下に納めます。こうして中国以西の地域と中国との間に交易が始まり、シルクロードが繁栄しました。しかしながら漢が滅亡すると、この地域も遊牧民族に支配されてしまふ交易はとどまらず、唐の時代になると中国支配が復活してシルクロードは再び繁栄します。唐中期以降は南方から遊牧民族が流入して衰退し、アラブ人が開いた海上ルート（海のシルクロード）にその役割は移行していきます。

西域から中国に伝えられたものは宝石、香料の他、胡椒、葡萄、胡麻などの食物で、最も知られているものは仏教の伝来です。インドで発生した仏教は、1世紀ころにはタリム盆地において信者を増やし、2世紀には中国に到達しました。仏教を通じた東西交流は、玄奘による足跡や、パミアンなどの遺跡、インドのガンダーラ美術、敦煌の石窟寺院（千仏洞・莫高窟）など遺跡群にそれを見ることができます。そしてさらに日本にも伝わり、東大寺の正倉院にはシルクロードによって運ばれた西域の美術品などが収められています。

9世紀以降これらオアシス都市はテュルク（トルコ）化が進むとともにイスラーム文化が浸透し始め、16世紀には仏教が駆逐されてイスラーム化が進み、以来独自のテュルク・イスラーム文化が発展しましたが、再び中国の清の支配下に入り、続いて中華民国、中華人民共和国との地域は新疆という名で中国の領土として受け継がれてきました。



「絹の道」（シルクロード）

中国と西アジア・地中海とを結ぶユーラシア大陸の交通幹線として、古代から、馬やラクダを利用した物資運搬の商人である罽賓（キャラバン）などが往來し、文物の交流が行われた。天山北路の草原の道と天山南路のオアシスの道が代表的であるが、実際は東西南北のネットワークである。*「絹の道」はこのネットワークの骨格を象徴する路線。



図書館情報 ～図書館の活動と近況～

アジア・アフリカ図書館は、アジア・アフリカ世界の情報に特化した専門図書館で、語学院生（留学生と研修生）や学術研究者をはじめ一般市民の方々にも公開しています。以下、最近の図書館活動の状況を紹介します。

▶ 研究者の来館

中国古代史研究者の成家徹郎（大東文化大学）、崎川隆（吉林大学）、国文学の張培華、松宮貴之（佛教大学）の諸先生が、また、8月には、昨年3月の中国郭沫若研究会名誉会長の郭平英さん（郭沫若の娘）と7名の中国人学者に続いて、郭沫若の孫の藤田梨那国士館大学教授を中心に15名の日本郭沫若研究会の研究者が来館されました。

▶ 特別展示

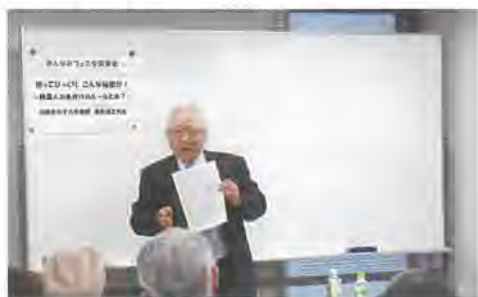
昨年度は、「詩」から見たアジア・アフリカ世界の企画展を行いました。2017年度は「道」から見たアジア・アフリカ世界」と題して、海・陸シルクロードを中心に“道”を通じた異文化や他地域との交流が、アジア・アフリカの文化や生活様式の形成にどのような特色や変化を与えてきたかの紹介を壁面パネルと書架において展示します。

▶ 「アジア・アフリカを知る集い」

毎年1回の「アジア・アフリカを知る集い」を行っており、昨年度は本年3月26日の、第25回において「ガンディーと日本」と題して東京外国語大学名誉教授でインド史学者の内藤雅雄先生が講演されました。市民も含め多くの方の参加があり盛会でした。

▶ 開館3周年記念行事「みんなみフェスタ」

三鷹市立南部図書館と共催で、11月23日に開館3周年記念行事が行われました。元東京女子大学教授でありNHKハンダ語講座の講師として知られる、兼若免之先生による「知ってびっくり、こんな秘密が！」の講演会や語学院生が参加した「留学生とおはなし会」には多くの市民や児童・生徒も参加して好評でした。



講演する兼若先生

▶ 秋の図書館行事予定

今年も秋以降「アジア・アフリカを知る集い」や「開館周年記念行事」「みんなみフェスタ」において、講演会や展示会など、「アジア・アフリカの“道”と文化」にちなんだ催しを行う予定です。

▶ 古書のリサイクル市

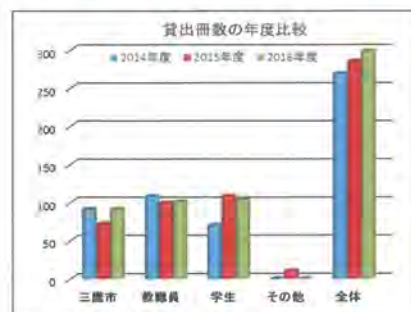
毎年、図書館では、古本のリサイクル市を開催しています。昨年度も多数の方が参加し、無料のリサイクル本を持ち帰られました。

▶ ポジャギ・韓国文化展

“みんなみフェスタ”の兼若先生の講演会に合わせて、韓国の伝統手芸「ポジャギ」を中心とした、「ポジャギ・韓国文化展—ポジャギから見る韓国の生活文化—」がエレベーターホールにて開催され、好評でした。

▶ 2014年度-2016年度の利用状況比較

アジア・アフリカ図書館利用者は、年々増えています。



図書館では上記の行事に関連した図書も収集しており、ご寄贈いただいた図書の整理を進める一方、これからは新しい図書を購入してより質の高いサービスを提供することとしています。なお、図書の貸出には利用登録が必要ですのでお申し込みください。

公益財団法人 アジア・アフリカ文化財団経営 アジア・アフリカ図書館

開館日：火、水、金、土、日（第3水曜、年末年始を除く） 開館時間：平日＝12時～17時、土・日：9時半～17時
〒181-0004 東京都三鷹市新川5-14-16 Tel：0422-44-4640 Fax：0422-46-5107

2017年度特別展示「道」から見たアジア・アフリカ世界」関連所蔵和図書リスト

No.	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
51	中央アジア J-12	ヴェネツィアの冒険家	ヘンリー・H・ハート著	新評論	1994
52	中央アジア J-13	マルコ・ポーロ書誌	Hiroshi Watanabe編	東洋文庫	1986
53	中央アジア J-14	マルコ・ポーロは本当に中国へ行ったのか	フランシス・ウッド著	草思社	1997
54	中央アジア J-15	ブハラ	アイニ著	未来社	1973
55	中央アジア J-16	ティームール朝成立史の研究	加藤和秀著	北大図書刊行会	1999
56	中央アジア J-17	ユーラシア胎動	堀江則雄著	岩波書店	2010
57	中央アジア 文化 J-1	中央アジアを知るための60章	宇山智彦編著	明石書店	2010
58	中央アジア 歴史 J-1	ラディカル・ヒストリー	山内昌之著	中央公論社	1991
59	中央アジア 歴史 J-2	中央アジア探検小史	金子民雄著	三省堂	1978
60	中央アジア 歴史 J-3	中央アジア探検史	深田久弥著	白水社	1971
61	中央アジア 歴史 J-4	中央アジアに入った日本人	金子民雄著	新人物往来社	1973
62	中央アジア 歴史 J-5	ロシアとアジア草原	佐口透著	吉川弘文館	1966
63	中央アジア 歴史 J-6	西域物語	井上靖著	朝日新聞社	1974
64	中央アジア 歴史 J-7	シルク・ロード紀行	松田寿男著	毎日新聞社	1971
65	中央アジア 歴史 J-8	シルクロード	岩村忍著	NHK出版	1966
66	中央アジア 歴史 J-9	シルクロードの歴史から	榎一雄著	研文出版	1979
67	中央アジア 歴史 J-10	シルクロード	深田久弥	白水社	1968
68	中央アジア 歴史 J-11	遊牧民から見た世界史	杉山正明著	日本経済新聞出版社	2011
69	中央アジア 歴史 J-12	文明の十字路	岩村忍 [著]	講談社	2007
70	中央アジア 歴史 J-13	ティムール帝国	川口琢司著	講談社	2014
71	中央アジア 歴史 J-14	大谷光瑞とスヴェン・ヘディン	白須淨真編	勉誠出版	2014
72	中国 言語 J-22	シルクロードを旅するウイグル語	アディラ・スマイ著	露満堂	2015
73	中国 文化 J-34	シルクロード文明の旅	加藤九祚著	中央公論社	1994
74	中国 文化 J-72	敦煌石窟の旅	久野健著	六興出版	1981
75	中国 文化 J-89	シルクロード全4道の旅	鎌澤久也著	めこん	2005
76	中国 歴史 J-43	中国の大航海者・鄭和	寺田隆信著	清水書院	1984
77	中国 歴史 J-44	鄭和	寺田隆信著	清水書院	1981
78	中国 歴史 J-50-1	長安から河西回廊へ シルクロード絲綢之路 第1巻	陳舜臣	NHK出版	1980
79	中国 歴史 J-50-2	敦煌 シルクロード絲綢之路 第2巻	井上靖	NHK出版	1980
80	中国 歴史 J-50-3	幻の楼蘭・黒水城 シルクロード絲綢之路 第3巻	井上靖 [ほか] 著	NHK出版	1980
81	中国 歴史 J-79-4	長城とシルクロードと 人物中国の歴史 ; 4	司馬遼太郎責任編集	集英社	1981
82	中国 歴史 J-115-1	NHKシルクロード : 絲綢之路 第1巻 長安から河西回廊へ	陳舜臣	NHK出版	1988
83	中国 歴史 J-115-2	NHKシルクロード : 絲綢之路 第2巻 敦煌	井上靖	NHK出版	1988
84	中国 歴史 J-115-3	NHKシルクロード : 絲綢之路 第3巻 幻の楼蘭・黒水城	井上靖 [ほか] 著	NHK出版	1988
85	中国 歴史 J-115-4	NHKシルクロード : 絲綢之路 第4巻 流砂の道	井上靖 [ほか] 著	NHK出版	1988
86	中国 歴史 J-115-5	NHKシルクロード : 絲綢之路 第5巻 天山南路の旅	陳舜臣	NHK出版	1988
87	中国 歴史 J-115-6	NHKシルクロード : 絲綢之路 第6巻 民族の十字路	司馬遼太郎	NHK出版	1988
88	中東 古代 J-63	メソポタミアとインダスのあいだ	後藤健著	筑摩書房	2015
89	朝鮮半島 文化 J-37	古代シルクロードと朝鮮	張允植著	雄山閣	2004
90	朝鮮半島 歴史 J-160	海のシルクロードとコリア	張允植著	雄山閣	2010
91	朝鮮半島 歴史 J-160b	海のシルクロードとコリア	張允植著	雄山閣	2010
92	朝鮮半島 歴史 J-162	シルクロードと朝鮮半島の考古学	岡崎敬著	第一書房	2002
93	日本文学 J-10-1 ~J-10-2	大航海 上下	伴野朗著	集英社	1984



2017年度特別展示「道」から見たアジア・アフリカ世界」関連所蔵和図書リスト

注: 背景が青色の図書は、展示ケースの中にあります。

No.	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
1	アラブ バットウータ J-1~J-8	大旅行記 1-8 東洋文庫	イブン・バットウータ「著」	平凡社	1996
2	アラブ バットウータ J-9	イブン・バットウータの世界大旅行	家島彦一著	平凡社	2003
3	アラブ 民族・文化 J-38	アラビアに魅せられた人びと シルクロード叢書	前嶋信次著	芙蓉書房	1982
4	アラブ 民族・文化 J-96	海のシルク・ロード	三杉隆敏著	新潮社	1984
5	アラブ 歴史 J-22	イスラム世界の成立と国際商業	家島彦一著	岩波書店	1991
6	アラブ 歴史 J-120	世界史の誕生とイスラーム	宮崎正勝著	原書房	2009
7	イラン 文化 J-11	シルク・ロードを行く	平野一郎著	朋文堂	1960
8	チベット J-9	青海・チベットの旅	岩垂弘著	連合出版	1987
9	芸術 美術 31	古代シリア文明展		NHK	1988
10	芸術 美術 50	スキタイとシルクロード美術展		日本経済新聞社 (制作)	1969
11	芸術 美術 55	古代ペルシア展	フレックス 編集	古代オリエント博物館	1998
12	芸術 美術 57	ペルシアの陶器	三上次男著	中央公論美術出版	1961
13	芸術 美術 69	ガンダーラ美術紀行	林良一著	時事通信社	1984
14	芸術 美術 70	ガンダーラの美神と仏たち	樋口隆康著	NHK出版	1986
15	芸術 美術 78	西域美術展	東京国立博物館	朝日新聞社	1991
16	芸術 美術 80	インド美術史	宮治昭著	吉川弘文館	1988
17	芸術 美術 93	ガンダーラの貴婦人と化粧皿	古代オリエント博物館編	古代オリエント博物館	1985
18	芸術 美術 216	ギリシャ美術の源流		朝日新聞社	1980
19	芸術 美術 262	敦煌・西夏王国展		映画「敦煌」委員会 (制作)	1988
20	芸術 美術 265	楼蘭王国と悠久の美女	朝日新聞社文化企画局東京 企画第一部編集	朝日新聞社	1992
21	芸術 美術 273	シルクロード二十五年	並河万里著	講談社	1980
22	芸術 美術 283	正倉院の宝物	正倉院事務所編	朝日新聞社	1985
23	芸術 美術 333	中国の石窟寺 世界の文化史蹟 ; 7	長廣敏雄編	講談社	1969
24	参考資料 J-44	中央ユーラシアの世界 民族の世界史 ; 4	護雅夫	山川出版社	1990
25	参考資料 J-152	ユーラシアの交通・交易と唐帝国	荒川正晴著	名古屋大学出版 会	2010
26	参考資料 J-162	シルクロード事典	前嶋信次	芙蓉書房	1975
27	参考資料 J-209	シルクロードの印章	小田玉瑛著	光琳社出版	1988
28	参考資料 J-212	イスラム・ネットワーク	宮崎正勝著	講談社	1994
29	参考資料 J-213	海図の世界史	宮崎正勝著	新潮社	2012
30	参考資料 J-214	「空間」から読み解く世界史	宮崎正勝著	新潮社	2015
31	参考資料 J-215	地図で読む世界史	柴宜弘編著	実務教育出版	2015
32	参考資料 J-216	ザビエルの海	宮崎正勝著	原書房	2007
33	参考資料 J-217	鄭和(ていわ)の南海大遠征	宮崎正勝著	中央公論社	1997
34	参考資料 J-227	海のシルクロードを調べる事典	三杉隆敏著	芙蓉書房	2006
35	参考資料 アジア全般 J-2	東西文化交流史	小林高四郎著	西田書店	1975
36	参考資料 アジア全般 J-3	古銭の道	森豊著	角川書店	1975
37	参考資料 歴史 J-4	イスラームと世界史	山内昌之著	筑摩書房	1999
38	宗教 仏教 J-51	シルクロードと宗教の道	生江義男著	NHK出版	1984
39	中央アジア J-1	中央アジア史	江上波夫編	山川出版社	1987
40	中央アジア J-1 New ed.	中央ユーラシア史	小松久男編	山川出版社	2000
41	中央アジア J-2	アジャロシヤ民族誌	沼田市郎訳編	彰考書院	1945
42	中央アジア J-3	アジア高原の旅	アールト・トインベ-著	毎日新聞社	1962
43	中央アジア J-4	中央アジア遺跡の旅	加藤九祚著	NHK出版	1979
44	中央アジア J-5	中央アジア踏査記	A.スタイン著	生活社	1939
45	中央アジア J-6	東方見聞録	マルコ・ポーロ著	社会思想社	1969
46	中央アジア J-7	中央アジアの冒険	ヴァンベリー-著	やしま書房	1962
47	中央アジア J-8	アジアの帝王	植村清二著	洋々社	1956
48	中央アジア J-9	西域の古都望見	森豊著	六興出版	1974
49	中央アジア J-10	東方見聞録	マルコ・ポーロ著	校倉書房	1960
50	中央アジア J-11	マルコ・ポーロ	M.Z.トーマス作	白水社	1964